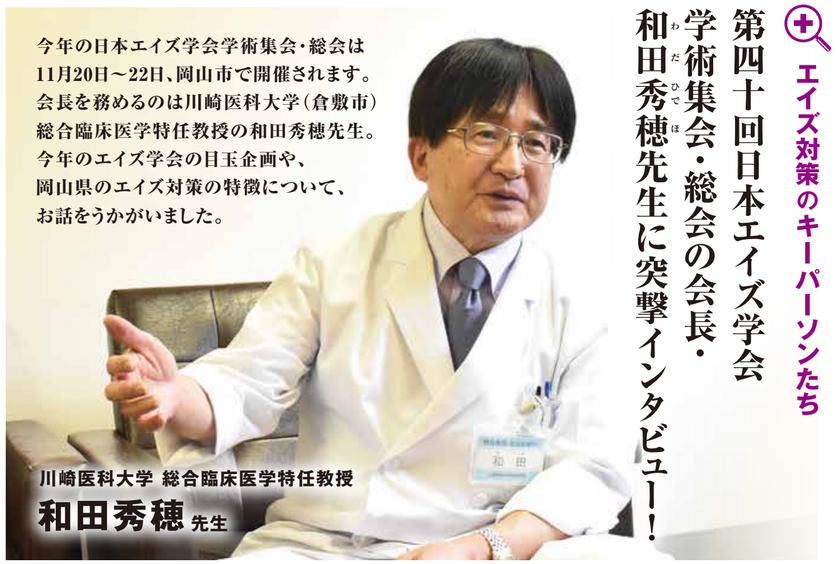
季刊 ［冬号］ 2026年11月13日 発行 第57号
南界堂通信
中高年世代のライフプランを考える新聞

発行：MASH大阪
〒530-0027 大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎&📠 06-6361-9300
https://www.dista.osaka/

この資材は、大阪市のMSM向けHIV予防啓発広報紙作成事業で制作されました。

エイズ対策のキーパーソンたち

第四十回日本エイズ学会学術集会・総会の会長・和田秀穂（わだひでほ）先生に突撃インタビュー！



今年の日本エイズ学会学術集会・総会は11月20日～22日、岡山市で開催されます。会長を務めるのは川崎医科大学（倉敷市）総合臨床医学特任教授の和田秀穂先生。今年のエイズ学会の目玉企画や、岡山県のエイズ対策の特徴について、お話をうかがいました。

MASH大阪（以下、M）：ご出身は？

和田（以下、和）：徳島県徳島市です。

M：医師を志したきっかけは？

和：祖父も父も医者という家庭だったのですが、私は次男坊。家業を継ぐ考えはなく、学校の教師になりたいと考えていました。ところが兄が医学部に入り、帰省すると親子三代医学の話で盛り上がって、とても楽しそうだった。「この会話に入りたい！」っていう気持ちが高まってきて、高三になると医学部を志望するようになり、川崎医科大学に入学しました。卒業後も大学に残り、大学では教員、附属病院では血液内科の医師として働いてきました。

M：HIVとの出会いは？

和：一九八〇年代、川崎医科大にも血友病でHIV陽性の患者さんがおられ、先輩の医師が診ておられた。HIV診療の第一世代にあたる先生です。岡山県の特徴として、HIV陽性の方がまだ少なかった時期から、医療者や行政の担当者などが集まって研究会活動を始めたことがあげられます。その後、HIV陽性者も参加するようになり、立場を超えて顔の見える関係がつくられていきました。こうした活動が一九九四年に研究会として形になり、その後、〈岡山HIV診療ネットワーク〉へと発展していきました。

M：〈関西HIV臨床カンファレンス〉の発足が九五年ですから、それより早い！

和：「顔の見える関係」がつくりやすい環境だったのでしょうね。岡山は患者さんがまだまだ少なく、時間的な余裕もあった。ところが二〇一〇年、人口十万人あたりのエイズ患者新規報告者数が全国で四位と急増。予防と早期発見の取り組みをさらに強化する必要性を感じ、これまで〈HIV診療ネットワーク〉で培った経験をもとに、行政・医療機関・CBO（地域密着型NGO）の三者が協働する「岡山エイズ感染防止作戦」を推進、十五年にはMSMを対象とする期間限定のクリニック検査「もんげー性病検査」を立ち上げました。この検査プログラムを実装するにあたって、中四国でMSMを対象とした活動を展開するCBO（一般社団法人カラフルドットライフ）（前身は〈HaaTえひめ〉）が全面的に協力してくれました。岡山県も重点事業と位置づけ、予算措置も講じてくれました。そんなわけで、行政・医療機関・CBOがガッチリ協働体制を組んだMSM向け検査プログラムとして現在に至っています。

M：なるほど、**MASH大阪が立ち上げ、現在は大阪府が事業化している「ゼロ円性病検査」の岡山版が三者協働体制のもとで実施されている**わけですね。そうした実績が評価されて岡山で開催されることになった？

和：それが直接の理由かどうかは分かりませんが、学会の理事長から打診を受けたのが二年半ほど前です。「あ、これは断る理由がないな」と、すぐに承諾しました。というのも、中四国での開催は十九年前の広島まで遡ります。地元での開催となれば、関係者にとって大きな刺激と励みになります。岡山県には医学部を有する大学が二つあり、人口比で医者の数が多く、医療・研究に幅広い関心を持つ医師も多いので、医療関係者にHIVの現状をアピールするよい機会になります。それから、拠点病院の整備、保健所での検査体制の構築、そしてカラフルドットライフと協働で実施したクリニック検査などこれまで実践してきたものがどう評価されるのかも気になるところですね。

M：学会のプログラムを作成するにあたって重視されたことは？

和：四つあります。ひとつは、基礎医学・臨床・社会の三つの領域をバランスよく配置すること、二つ目は薬害エイズ裁判の和解から三十周年を迎え、歴史を振り返るとともに、陽性者の高齢化に伴い、支援体制をどう構築していくかを考えること。**かつては、HIV診療に携わる医師が患者さんを最期まで診ることが多かった。しかし今では、治療の進歩によってHIV陽性者の長期生存が可能になり、診療や支援をする側が先に世代交代する時代になっています。だからこそ、次の世代の支援者を育てていかなければならない。**特に高齢者福祉の分野を含め、支援に関わる人材をさらに広げていくことも課題です。三つ目は、**これまでHIV陽性者にはMSMの方が多く、支援もそのニーズを意識して構築されてきました。一方、外国籍の方やトランスジェンダーの方、また薬物使用を含め、さまざまな背景や課題を持つ方々への対応も、今後より重要になってくる**と考えています。そして四つ目は、**プレップをはじめとする有効な予防手段を、必要とする人が適切に利用できる体制をどう整えていくか**ということですね。

M：幅広い領域への目配りがすごい！ お医者さんの話というよりは…

和：学校の先生の話みたいでしょ（笑）。医学部では学生を教える立場でもありますしね。でも、岡山・中国四国という環境がそういう自分を育ててくれたのかなとも思ってます。

M：学会が楽しみになってくるお話でした。どうもありがとうございました。

冬号の紙面VIEW

2面 時事ネタWATCH
4面 男朋友
6面 知られざる偉人伝「小説とエイズ」
7面 海外男街通信「イタリア・ローマ」

12月1日は「世界エイズデー」です

こちらのHIV検査場はすべて無料・匿名です 大阪府版（2026年9月20日現在）

エイズの知識を深め、HIV検査に行ってみませんか？ 以下の検査施設では、無料・匿名でHIV検査を受ける事ができます。
※新型コロナウイルス等の影響により検査実施状況が変更になる事がありますので、各保健所へご確認ください。

［大阪市］

北区役所 保健福祉センター ◉ 大阪市北区扇町2-1-27 ☎06-6313-9882	月・金曜日／9時30分～11時 水曜日／14時～15時30分 第5金曜日／18時～19時30分（定員100名）
中央区役所 保健福祉センター 大阪市中央区久太郎町1-2-27 ☎06-6267-9882	火・水・木◉／9時30分～11時 第1金曜日★（HIVのみ）／14時～15時
淀川区役所 保健福祉センター ◉ 大阪市淀川区十三東2-3-3 ☎06-6308-9882	月曜日／14時～15時30分 火曜日／9時30分～11時
chotCAST 大阪検査相談・啓発・支援センター 大阪市中央区東心斎橋1-7-30 21心斎橋ビル4階 火・木・土・日曜日／☎06-4708-5035 ※いずれも検査実施時間帯のみ **［木曜日、土・日曜日はWEB予約］** **https://chotcast.com**	火曜日／18時～19時50分（先着50名） HIV・梅毒・B型肝炎 木曜日★／18時～19時30分 （先着50名）（予約制） HIV・梅毒・B型肝炎 土・日曜日★／14時～15時30分 （先着50名）（予約制） HIV・梅毒・B型肝炎

※下記ホームページで、必ず検査実施状況をご確認ください。
http://www.smartlifeclinic.com/

［堺市］

堺保健センター（堺市役所敷地内） ◉ 堺市堺区南瓦町3-1 ☎072-238-0123	第4水曜日／9時15分～10時45分
中保健センター ◉ 堺市中区深井沢町2470-7（中区役所内） ☎072-270-8100	第3月曜日／9時15分～10時45分
東保健センター ◉ 堺市東区日置荘原寺町195-1（東区役所内） ☎072-287-8120	第4火曜日／9時15分～10時45分
西保健センター ◉ 堺市西区鳳東町6丁600（西区役所内） ☎072-271-2012	第1火曜日／9時15分～10時45分
南保健センター ◉ 堺市南区桃山台1-1-1（南区役所内） ☎072-293-1222	第3水曜日／9時15分～10時45分
北保健センター ◉ 堺市北区新金岡町5-1-4（北区役所内） ☎072-258-6600	第2火曜日／9時15分～10時45分
美原保健センター ◉ 堺市美原区黒山782-11 ☎072-362-8681	第4木曜日／9時15分～10時45分
サンスクエア堺 堺市堺区田出井町2-1 サンスクエア堺B棟地下1階 第5会議室 ☎072-222-9933 （堺市保健所 感染症対策課（開庁時間のみ））	奇数月・第3水曜日 18時30分～20時（先着25名） HIV・梅毒

※検査実施状況は変更となる可能性がございますので、必ずホームページにて最新情報をご確認ください。

［東大阪市］

東保健センター ◉ 東大阪市旭町1-1 ☎072-982-2603	第1金曜日／9時30分～11時
中保健センター ◉ 東大阪市岩田町4-3-22-300 ☎072-965-6411	第2・4水曜日／9時30分～11時
西保健センター ◉ 東大阪市高井田元町2-8-27 ☎06-6788-0085	第2・4月曜日／9時30分～11時

※定例外で実施することがございますので、実施日はウェブサイトでご確認ください。

マークの説明
◉ HIV検査と同時にクラミジア及び梅毒の検査も無料で出来る施設です。
★ 即日検査できる施設です。＊通常の検査では一週間、即日検査はその日のうちに結果がわかります。

［高槻市］

高槻市保健所 ◉ 高槻市城東町5-7 ☎072-661-9332	毎週木曜日／9時30分～10時30分

［豊中市］

豊中市保健所 ★ 豊中市中桜塚4-11-1 ☎06-6152-7316	第1火曜日・第3木曜日／13時～14時 HIV・梅毒

［枚方市］

枚方市保健所 ◉ 枚方市禁野本町2-13-13 ☎072-807-7625	毎週火曜日／10時～11時30分

［八尾市］

八尾市保健所 ◉ 八尾市清水町1-2-5 ☎072-994-6644（感染症担当）	原則 毎月2回（木曜日）／9時30分～11時 （予約制／定員12名）

［寝屋川市］

寝屋川市保健所 ◉ 寝屋川市八坂町28-22 ☎072-829-7773	第1・3水曜日／9時30分～10時30分

［吹田市］

吹田市保健所 ◉ 吹田市出口町19-3 ☎06-6339-2227	第1・3金曜日／9時30分～11時

［大阪府］

池田保健所 ◉ 池田市満寿美町3-19 ☎072-751-2990	第1・2火曜日／13時30分～14時30分
茨木保健所 ★ 茨木市大住町8-11 ☎072-624-4668	第1・2・4木曜日／9時30分～10時30分 HIV・梅毒 ※ただし、12／25及び1／1は実施なし
守口保健所 ◉ 守口市京阪本通2-5-5（守口市庁舎8階） ☎06-6993-3133	第2・4月曜日／10時～11時
四條畷保健所 ★ 四條畷市江瀬美町1-16 ☎072-878-1090	第1・3月曜日／9時30分～10時15分 HIV・梅毒
藤井寺保健所 ★ 藤井寺市藤井寺1-8-36 ☎072-955-4181	第2・3水曜日／9時30分～10時30分 HIV・梅毒
富田林保健所 ◉ 富田林市寿町3-1-35 ☎0721-23-2683	第1・3水曜日／13時30分～14時30分
和泉保健所 ◉ 和泉市府中町6-12-3 ☎0725-41-1392	第2・4水曜日／9時30分～11時 ※ただし、12／24及び2／11は実施なし
岸和田保健所 ◉ 岸和田市野田町3-13-1 ☎072-422-6077	第1・3火曜日／13時30分～14時30分
泉佐野保健所 ★ 泉佐野市上瓦屋583-1 ☎072-462-7703	第1・3月曜日／13時～14時

エイズ、性感染症について、気軽にご相談ください！

HIV陽性とわかった時、またエイズや性感染症について相談したり、情報が欲しい時、大阪には相談できるサービスや支援があります。気軽にお問い合わせください。

HIV検査や性感染症などに不安がある方

community center dista

性感染症について知りたい、相談や心配事がある、そんな方はご相談ください。お話をお聞きし、一緒に考えるお手伝いをします。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人もいて安心です。



住所：大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎ 06-6361-9300
木曜～月曜/18:00～21:00（火・水曜休館）
https://www.dista.osaka/

相談がしたいHIV陽性の方

SO・SO・SO 総合相談窓口
薬の飲み疲れ、依存症、高齢化と共に感じる将来への不安、その他の疾患による影響、引きこもりによる落ち込み、HIVの知識、生活などお悩み事は人それぞれです。気軽にご相談ください。
www.charmjapan.com/charmsoudan/

HIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性

カフェイベント『あんおぼ』
HIV陽性のゲイ・バイセクシュアル男性がふらっと立ち寄れる場所。谷町6丁目駅から徒歩3分のところにあるお店で、毎月第二日曜日14時～18時に開催しています。
注：月曜日が祝日の場合には第三日曜日
詳細はこちら http://www60.atwiki.jp/anopportunity/

エイズに関する様々な相談をしたい方

エイズ予防財団
エイズに関するご相談を電話で受け付けています。お気軽にご連絡ください。
☎ 0120-177-812（無料）
※携帯電話からは、03-5259-1815まで（有料）
月曜～金曜/10:00～13:00、14:00～17:00（祝日は除く）

［南界堂通信第57号 編集後記］

南界堂通信の X（旧Twitter）をフォローして最新情報をチェック！
X @namkaido

●8月に久しぶりに台湾を旅行して以来、台湾風チマキにはまってます。北部（蒸す）と南部（ゆがく）で作り方が違うらしいけれど、バエリアの要領でつくったら美味！年末のサロン・ド・オニでつくってみようかしら…（哲）

●9月21日とやまプライドマーチに参加しました。パレードでは無くマーチと呼ぶ理由を聞き感服しました。取材者の自己紹介（青森にならった?）や「当事者限定スペース」と参加者が安心して過ごせる取り組みに感心しました。（泰平）

●仕事でAIの使い方の研修を受講しました。既に、先例の調査や会議録の作成、簡単な起案には使い始めていますが、自動で思考してあれこれ提案して来るモデルも出ているとのことで、ちょっと怖くなりました。（大畑）

時事ネタWATCH
中高年MSMと暮らし

「にじいろ家族」、今年も釜ヶ崎夏祭りに出店

「カオマンガイ（Khao Man Gai）は、タイの屋台料理のひとつである。茹でた鶏肉と、その茹で汁および鶏脂で炊いた米飯を組み合わせた料理で、その名は「鶏の油飯」を意味し、鶏の旨味と脂を米に移し込む調理法を特徴とする。」（wikipediaから）



今年の夏祭りでも

毎年八月のお盆の時期に**西成区の釜ヶ崎地区の三角公園で開催されている夏祭りに、今年も「にじいろ家族」が出店し、カオマンガイを販売しました。**

企画者の渡辺匡人さん（ちむ訪問看護ステーション）に聞きました。

「以前はそうめんを販売した時期もありましたが、そうめんってくっつくし、大変。赤字の時もありました。カオマンガイだと、事前の仕込みは必要ですが、当日の配膳がしやすい。今年は収支トントンでした（笑）」



鶏を洗って仕込み、米はにんにく、しょうが、隠し味も入れています。



当日は、鶏をレンジで加熱した後、米の上に載せて大きな炊飯器で炊きます。

「お米は、堂山で以前開業していた『カフェあばんて』の方が今農業をしていて、お米を送っていただいたので、使わせて頂いています。

当日は、毎月やっている『ロカボ食べながらHIVを知る会』の仲間が手伝ってくれています。」



故梅田政宏さんとのかかわり

このカオマンガイの出店、もともと、ゲイのケアマネジャー（介護支援専門員）の梅田政宏さんが、十数年前に「にじいろ家族」として始めたものです。梅田さんが二〇二二年夏に亡くなった後も、（新型コロナ禍を挟みつつも）休むことなく、継続したそうです。

「釜ヶ崎夏祭りの実行委員会には、団体としての参加なので、梅田さんの『にじいろ家族』の名前を今も使っています。

お米を炊くのに炊飯器を数台使っていたのが、梅田さんが大きな釜を買いました。これも、『にじいろ家族』の会社の経費で購入したものです。梅田さんが亡くなった後、譲り受けて、使わせてもらっています。**今年も、梅田さんのいわば形見の釜でカオマンガイを作りました、とお母さんに報告しましたら、喜んでくれました。**」

年々強まる酷暑。釜ヶ崎の夏祭り自体も午後からの開催となりました。ですが、これからも続いてほしいと思いました。



富山で初めてのレインボーパレード

シルバーウィークのさなかの九月二十一日（祝）、富山市内で、初めてのレインボーパレード（プライドマーチ）が開催されました。

「私たちは富山（ココ）にいる」とのスローガンのもと、青森、新潟、金沢、兵庫、香川、大分といった各地からの応援参加もありました。

世界的にはプライドマンスは六月だそうですが、日本では、なぜか秋が多いですね（気候のせいか）。

十月十日、十一日の大阪（関西レインボーフェスタ）をはじめ年内のプライドパレードの日程は次のとおりです。

◎十二月五日
えひめプライドパレード（松山市）
◎十二月六日
レインボーフェスタ和歌山（和歌山市）

追っかけエイズ

大阪市のエイズ対策の“実績”と“これから”

～大阪市のHIV検査をもっと受けやすく、令和八年度のイベント検査・郵送検査のご案内～

昨年、我が国の「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」が改正されました。主な変更点として、従来「第六」にあった「権利の尊重」を「第二」とし、偏見・差別の解消をより明確に位置付けました。加えて、医療・介護従事者がU=Uを含む正しい知識を十分に持たないことを理由に、医療やサービス提供を拒否する行為は偏見・差別に当たる、との認識が示されています。また、**二〇三〇年までのHIV流行終息に向け、UNAIDSの国際目標を踏まえ、ケアカスケードの「95・95・95」目標の将来的な達成を目指す**ことが掲げられています。

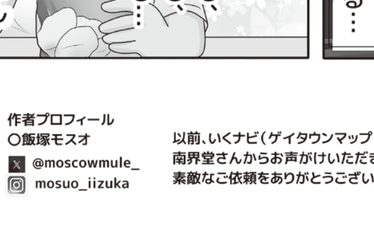
大阪市のHIV／エイズの報告数は、近年は減少傾向でしたが、令和六年に増加へ転じ、令和七年の新規報告数は、HIV感染者七十一名、エイズ患者八名の計七十九名でした。感染経路別では同性間性的接触が多く、HIV感染者は二十～三十歳代、エイズ患者は三十～五十歳代に多くみられます。増加に転じた状況や、報告数における特徴は国全体でも同様の傾向です。しかし、**新規報告数全体に占めるエイズ患者の割合は、全国では約三割で推移している一方、大阪市では令和7年十一％でした。**大阪市では、時間帯・曜日・場所など多様な受検機会を確保するため検査体制を整備していることから早期発見につながっていると考えていますが、今後の発生動向に注視していく必要があります。

大阪市では平成十九年に「大阪市エイズ対策基本指針」を策定し、五年ごとに評価・見直しを行っており、現在は令和九年九月三〇日までの期間の「第四次エイズ対策基本指針」に基づき対策を推進しています。**本指針は「五年間でエイズ患者報告数を十五％減少」を目標とし、三つの副次目標を設定し、令和七年はそのいずれの年度別目標を達成しています。副次目標の一つである「年間HIV検査受検者数一万二千人以上」については、令和四年度以降、令和八年度の最終目標を前倒しで達成し、令和七年度は一万二千六三〇件でした。**

今年度はイベント検査として、浪速区役所でHIV・梅毒の即日検査を実施予定です。また、今年度は期間限定でHIV・梅毒の郵送検査も実施予定です。

今後も、検査を受けたことのない層や外国人の方にも届く検査体制の充実を進めるとともに、PrEPの普及が進む中、コンドームによる予防啓発など、性感染症予防も含めたエイズ対策を推進していきます。

（文：大阪市保健所 感染症対策課）



https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000371513.html

実録！R40物語

アラフォーからアラカン世代の皆さま、お待たせいたしました！「あるある」「ドキッ」「アラやだ！…」といった中高年世代にドンピシャな内容を、年齢や個性もバラバラさんたちが4コマ漫画でつづるこのコーナー。今回ご紹介するのは飯塚モスオさんの作品です！

【未完ってサイコー】

作者プロフィール
〇飯塚モスオ
@moscowmule_
mosuo_iizuka

以前、いくナビ（ゲイタウンマップ）で漫画を描いていました。
南界堂さんからお声がけいただき、久しぶりに漫画を描く機会をいただけて、とても嬉しいです。
素敵なご依頼をありがとうございました

支配と服従の関係を過激に切なく描く、風変わりで普遍的なゲイ・ロマンス映画

男色エンタメ紀行



プロフィール◉木津毅（きづ・つよし）
ライター。1984年大阪生まれ。映画、音楽、ゲイ・カルチャーを中心に様々なジャンルで執筆している。
『ミュージック・マガジン』で「木津毅のLGBTQ＋通信」連載中。
編書に田亀源五郎『ゲイ・カルチャーの未来へ』（Pヴァイン）、
著書に『ニュー・ダッド あたらしい時代のあたらしいおっさん』（筑摩書房）がある。



BDSM（ボンデージ／拘束、ディシプリン／支配と服従、サディズム＆マゾヒズム）をモチーフにしたゲイのロマンティック・コメディと聞いて、あなたはどんな映画を思い浮かべるだろうか。想像できない？　それならぜひ、実際に『ピリオン』を観てみてほしい。そこで描かれるのは世間からすると「特殊な」関係かもしれないが、たしかに恋をすることの痛みと喜びが封じこめられているからだ。ゲイのロマンスをテーマにした作品は、いまもどんどん進化している。

舞台はロンドン。内気なゲイの青年コリン（ハリー・メリング）は、あるときパブでバイカーのグループにいたハンサムだが不愛想な年上の男レイ（アレクサンダー・スカルスガルド）と出会い、連絡先をもらう。クリスマスの夜に唐突に呼び出されたコリンはのこのこ出かけていくが、いきなり路上でフェラチオを要求される。それでもレイに惹きつけられたコリンは、彼に服従することに喜びを見出していくが…。

ミステリアスでセクシーな男に振り回されながらも夢中になっていくのはロマコメの王道だけど、そこにゲイの支配／服従関係の要素が入ってくるのがこの映画の面白いところ。はじめてレイの家を訪れたコリンは料理を作らされたり、ベッドではなく床で寝るように命じられたりして戸惑いつつも、不思議とその要求に従ってしまう。さらにはウケがうまくできなかったあと、「お前のケツ穴はキツすぎるから、アナルプラグ買っとけよ」と言われて「そ、そうだね」と答えるくだりは笑えるけれど、冷静に考えればかなり強烈なやり取りだ。コリンはやがてBDSMのグループに参加していっしょにキャンプに出かけるのだが、テーブルにうつぶせになった「家来」たちが「主人」たちに一斉に攻められるシーンもすごいものがある。**笑えるロマコメでありつつ、かなり露骨なゲイのセックスをしっかり見せる映画**なのだ。



本作の原作であるアダム・マーズ＝ジョーンズ（1954年生まれの70代）の小説『Box Hill』での時代設定は1970年代だが、映画では現代になっている。ここがこの映画の巧みなところで、これが長編デビュー作となるハリー・ライトン監督（1992年生まれの30代）はスマートフォンなどディテールを現代に置き換えながらも、BDSMカルチャーがいまも昔も本質的には変わっていないことを示している。それから、ゲイのややこしい恋愛も。つまり『ピリオン』は、ゲイのラブ・ストーリーが世代を超えて受け継がれたものでもあるのだ。

実際、BDSMではなくても、レイとコリンのような関係に対して身に覚えがあるひとも多いのではないだろうか。相手に夢中になるなかで、彼の要求に応えることが自分の喜びになっていく…いや、そう思いこむようになっていく。そのことで、自分が恋愛やパートナーシップにおいて何を求めているのか、自分でもわからなくなってしまうのだ。コリンはレイとのロールプレイ的なつながりに興奮しつつも、一方で「プレイ」ではない時間も求めるようになり、ふたりの関係はますますこじれていく。

僕はこの映画を観ながら、コリンがレイに惹かれていく過程に胸が苦しくなってしまった。「自分がこのレイに出会ったらどうするだろう？」とつい想像すると、自分もやりかねないなと思う。誰かにどうしようもなく恋をして、自分を見失って、うまくいかなくて暴走するという…いろんな痛々しい記憶が蘇ってくる。見ているとつらいのだけど、だからこそ、感情移入せずにはいられない。

コリンはたくさん傷つきながら、自分が恋愛や関係性において本当に望んでいることを真剣に考えるようになる。結局のところ、誰かのことを好きになるということは、**自分自身を否応なく見つめ直すことでもあるから。そして余韻の残るラストは、苦しい想いをしながらも、ひとは誰かを求めずにいられないことを示している**だろう。

だから、刺さるひとにはめちゃくちゃ刺さる作品なはず。こういうユニークなゲイ映画が作られるようになったこと自体が喜ばしいことだし、しっかりBDSMコミュニティのディテールを描いているところも楽しい。さて、あなたはめちゃくちゃセクシーな男に「俺の犬になれ」と言われたらどうしますか？　きっぱりと断るか、それとも、その関係に溺れますか？

『ピリオン』

監督：ハリー・ライトン
出演：アレクサンダー・スカルスガルド、
　　ハリー・メリング
配給：トランスフォーマー
2025年／イギリス・アイルランド

12月4日（金）より、
テアトル梅田ほかにて公開

© 2025 Element Pictures PLN Limited, British Broadcasting Corporation and The British Film Institute

男 for you 朋友

LGBTQ+が踊ることの楽しさを人々に伝えていくのは意義深いこと。

これまでMASH大阪が運営してきたカフェイベントやクラブイベントに最初期からかかわり、DJとして音響担当として私たちの活動を支えてきたDJ kor（DJカオルさん）にお話をうかがいました！



MASH大阪（以下、M）：ご出身は？

kor（以下、k）：京都市の岡崎です。

M：DJになるまでの道のりを聴かせてください。

k：もともと音楽が好きで。三歳から音楽教室に通い、小・中学生の頃は毎日三時間くらい自宅のピアノで練習。合間にさっき聴いた曲を耳コピで弾いたり。個人レッスンではバッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームスなどを。高校生になってライブ活動を始め、友達のバンドにキーボードで参加してました。大学では音楽教育学を専攻し、漠然とではあるけど、音楽教育に関わる仕事に就きたいなぁと。大学二年のとき、京都のクラブ〈METRO〉でDJデビュー、といっても友達の箱貸しパーティでお手伝い。当時から〈METRO〉では週末のいわゆる「渋谷系」のパーティの他に〈CLUB 80'S〉など平日でも月例パーティがたくさんあって、最終金曜日が〈DIAMONDS ARE FOREER〉。岡崎の実家から歩いて行けるので、僕にとって京都の音楽シーンの真ん中にはいつも〈METRO〉がありましたね。

M：その頃から〈DIAMONDS…〉でDJを？

k：いえいえ、それはずっと後の話で、当時はお客として行ってた。一九九五年十月にダムタイプの古橋悌二さんがエイズで亡くなり、衣鉢を継ぐかたちでアートとエイズ・ジェンダー・セクシュアリティをつなぐプロジェクトが動き出す。映画祭やウーマンズ・ダイアリーなどですね。すでにそうした活動で実績のあったAIDS Poster Projectが〈METRO〉であたらしいクラブパーティ〈ClubLuv+〉を始めて。エイズ／セックス／セクシュアリティに関連するパフォーマンスやショウや予防啓発がてんこ盛りのユニークなパーティで、九六年から二〇〇〇年まで続くのですが、その終わりの方でスタッフの友達に頼まれお手伝い。映像作品『最後の日』では曲の編曲と録音担当として参加しました。

M：九〇年代後半の〈METRO〉では、エンタテインメントに振り切った〈DIAMONDS…〉とメッセージ性の強い〈ClubLuv+〉とが毎月開催されていた！　その裏側では、カオルさんのような専門職ボランティアが運営を支えていたわけですね。大阪のゲイシーンとの接触は？

k：〈ClubLuv+〉とほぼ同じ頃、大学を卒業して就職し、堂山の〈EXPLOSION〉にも行くようになりました。そこで気付いたのは、ゲイクラブでのDJの主流はハウス、トランスそして少しR&B。僕の好きな渋谷系や80'sとはまるで別世界だった。「ああ、自分はノンケの音楽シーンでしかやってこなかったんだな」と。とても刺激になりました。

M：カオルさんにとって渋谷系や80'sの魅力とは？

k：大好きな旧いレコードからの引用と編集。それと、新しい機材の音色。情緒があって刹那的。まさに「ハッピー・サッド」ですね。

M：そんな中、MASH大阪との出会いは？

k：〈ClubLuv+〉でMASH大阪のスタッフを通じて、distaが開設された際のカフェイベント〈Café Link〉や二〇〇〇～二〇〇二年に開催された臨時検査イベント〈SWITCH〉のクラブイベントに参加、それを引き継いだ〈basement[g]〉さらにそれを拡大し扇町公園で展開した〈PLuS+〉にサポートDJ、音響担当で参加しました。



M：〈basement[g]〉、懐かしい！　確かお初天神近くの〈Toccate〉っていうお店で、有名になる前のマツコ・デラックスも出演してましたよね？　あ、そうか、〈PLuS+〉で〈DIAMONDS…〉を主宰するシモーヌ深雪に出会った？

k：そう、シモーヌさん、悌二さんとともに〈DIAMONDS…〉を立ち上げたDJララ（山中透）さんが不在のとき



に手伝い始め、二〇〇八年年末の〈METRO紅白歌合戦〉で初めてクレジットが入りました。

M：エンタメ系の〈DIAMONDS…〉、啓発系の〈ClubLuv+〉〈basement[g]〉〈PLuS+〉で参加する際のスタンスに違いは？

k：ないです（笑）。**クラブパーティでDJや音響の仕事をする傍ら、企業案件でホテルのロビーや宴会場でDJやドラァグクイーン・ショウのディレクション、保育園と契約してリトミック・ソルフェージュのレッスンを担当してきました。個人としては子どもは育てないけれど、LGBTQ+の人間が音楽のもたらす歓び、踊ることの楽しさを人々に伝えていくことに関わるのは意義深いことだと思っています。**

M：大学で学んだ音楽教育学を実践してるわけですね。興味深いお話、どうもありがとうございました。

知られざる偉人伝

小説でエイズはどのように描かれたか

四回連載した橋本治シリーズはいったんお休み。今回は趣向を変え、エイズというテーマに取り組んだ小説を取り上げて、その読後感をMASH大阪ボランティアのトシオとテツに思う存分語り合ってもらいました！

テツ：エイズをテーマにした芸術作品っていうと、自分もその制作に参加したダムタイプのパフォーマンス『S/N』（一九九四年）の存在があまりにも大きくて、小説にはあんまり注目してこなかったんだけど、トシオはどう？

トシオ：最近、大池真知子さんという研究者が二〇一四年に発表した「日本の小説とHIV/エイズ」という論文を読んで、「あ、くやしーい！」って思ったの。どういうことかというと、僕は大学の卒業研究で芸術がエイズをどのように表現してきたかを取り上げようとしていて、結局、芸術全般をまとめたんだけど、その後も新たな小説が出てきて、小説を中心に取り上げても良かったんじゃないかと思って。二十年近くエイズ予防に取り組んできた人間からみて「これはちょっと酷いな」と思った作品もあれば、すごく共感できたものもあった。で、その判断基準というのが、この論文の著者と見事に一致してたのね。だから「先を越されてくやしーい！」ってなったわけ。

テツ：なるほど。じゃあ、「これはちょっと酷い」って思った作品にはどんなものが？

トシオ：真っ先にあげたいのは、湊かなえの『告白』（二〇〇七年）。これのどこが酷いかっていうと、主人公が復讐のためにHIVに感染した血液を牛乳に混ぜて飲ませる場面があって、「HIVが復讐の道具になっている。これはヒドイ！」って思ったのと同時に「この作家、**エイズという病いと向き合っていうより、八〇年代にマスメディアがまき散らした「死の病」のイメージを無批判に利用して、そのまま拡散しているだけ**なんだ」と。

テツ：病者の生きざまを描くのが作家の仕事だろうにね。**結核やハンセン病で同じことが書けただろうか？**　結核患者と徹底的に向き合った幸田文（こうだ あや）の『闘（とう）』を思い出さずにはいられないなぁ…

トシオ：この『告白』にはさらに腹立たしいことがあって、治療法確立後十年以上経って発表されてること、本屋大賞を受賞してること、そして映画化され、日本アカデミー賞の最優秀作品賞を受賞してること。作家にも賞の関係者にもHIV陽性の人たちのことは見えてないし、知識をアップデートせずにいる。

テツ：馬脚をあらわした賞たちだね。他にひどいと思った作品はある？

トシオ：和久峻三（わくしゅんぞう）の『エイズ街の連続殺人』（一九八七年）と松本清張（まつもとせいちょう）の『赤い氷河期』（一九八九年）。ミステリー作家たちが「死の病」というイメージに惹かれるのは理解できるし、時代を鑑みるとモチーフとして扱うのはわかるけれども、現状を知る者が読み返すのは辛すぎました。イメージに寄りかかりすぎて、生身の人間がいないところが。

テツ：じゃあ、共感した作品は？

トシオ：瀬戸内寂聴の『愛死』（一九九四年）と村上龍の『KYOKO』（一九九五年）。『愛死』は、大池さんも言うように過剰にロマン化されているところが気になるけれど、エイズと共に生きる人たちの人物像をしっかり描いた最初の小説ではないかな？『KYOKO』は過剰なロマン化を避けつつ、当時の米国のエイズの状況をしっかり押さえているところに感動しました。

テツ：『KYOKO』は私も感動しましたよ。芥川龍之介の『藪の中』を思わせる、独り語りの連なりの中から、当時の米国のエイズ患者の状況、移民の状況、キューバンダンスの魅力、様々な偏見と犯罪社会的側面が浮かび上がってくる構成がなんとも素晴らしい。でもさ『S/N』『愛死』『KYOKO』が世に出たのが一九九四～五年に集中してるのはなぜなんだろう？

トシオ：治療法が確立する直前だよね。**エイズはまだ「死に至る病」だったけれど、それゆえの偏見にあらがう動きが噴出してくる、そんな時代だった**から？

テツ：なるほどね。上記以外に気になる作品ってある？

トシオ：吉本ばななの『スライ』（一九九六年）、それからラノベで川原礫（かわはられき）の『ソードアート・オンライン7』（二〇一一年）。『ソードアート…』はエイズの末期にある少女が仮想空間でコミュニティをつくり、仮想空間で自己実現を果たす物語なんだけれど、当時の若い読者層に「エイズ」を知ってもらうために架空の近未来を舞台にしながら困難や葛藤を描いていると思った。

テツ：『スライ』は小説として始まったはずの物語が途中からエジプト旅行記に変貌して、あれぇ？ってなる、読後感は悪くないけど…。治療法確立後に発表された『告白』と『ソードアート…』を比べてみると、**芸術性はともかくとして、伝わるメッセージの質という点ではラノベが純文学を凌駕してしまったなぁって印象**だよね？

トシオ：同感！　売上もケタ違いだしね～～～



海外男街通信

コロッセオはかつて発展場だった

ローマのゲイ・ストリートから見るイタリアのLGBTQ小史


2022年大晦日のコロッセオと「カミングアウト」

はじめまして。京都大学大学院でイタリア映画、とくにフェデリコ・フェリーニの作品について研究している神田育也と申します。二〇二二年度と二〇二五年度のこれまで二度、イタリア国立映画実験センターで映画資料を収集するためにローマに留学しました。二年滞在していると、トレヴィの泉や真実の口といった「これぞローマ」な観光地だけでなく、ガイドブックにはあまり載らない別の街の顔が見えてきます。その一つが、コロッセオのすぐ隣にある三〇〇mほどのゲイ・ストリート、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ通りです。

最初に目が止まるのは、バー「カミングアウト」。なんとまあストレートな名前の店です。そこを起点に、LGBTQフレンドリーな店が軒を連ね、通りを進んでいくと教皇ゆかりのサン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂が鎮座しています。片や古代ローマの象徴コロッセオ、片やカトリックの権威を背負った大聖堂。ローマを支えた二つの歴史のあいだを虹色の店が貫く―なかなかローマらしい光景です。


ピニェート地区のフェミニスト/レズビアンバー「リブレリア・チューバ」

ローマのゲイ文化がこの通りに集約されているわけではありません。テルミニ駅やサン・ジョヴァンニのクルージングの他、ピニェートやサン・ロレンツォにはオルタナティブ文化と結びついた店が点在し、オスティエンセやテスタッチョにはLGBTQ団体の活動拠点もあります。さらに少し中心部を離れれば、一九九〇年代から続く伝説的なクラブ「ムッカッサッシーナ」もあります。新宿二丁目やパリのマレ地区のように、ゲイの居住・商業・社交が密集した場所は、英語で"gay"と neighborhoodを掛け合わせて"gayborhood"、「ゲイ町内会」と呼ばれます。ところがローマの場合、そうした便利なゲイ町内会が存在するわけではありません。飲む場所、生活する場所、セックスする場所が街に散逸し、そのなかで、コロッセオ脇のごく短い区間だけがわざわざ「ゲイ・ストリート」を名乗っている。これがローマの見取り図です。

その背景をたどると、**ローマのゲイ空間が、長い時間をかけて街の「表」へ出てきた**ことがわかります。一九六〇年代以降、コロッセオに隣接するコッレ・オッピオや、カンピドリオ近くのモンテ・カプリーノなどの公園が、ヒミツの発展場として機能しました。ヴィットリオ・カプリオーリの映画『Splendori e miserie di Madame Royale』（一九七〇）では、コロッセオが発展場として登場します。ウーゴ・トニャッツィ演じる主人公がイイ男に声をかけられ、ノコノコついていくと、相手はまさかの警察官。数日前に殺された同性愛者について事情聴取されるという物語です。これだけを見ると可笑しいのですが、この「欲望と死が隣り合わせの夜のローマ」は、映画の世界に限りません。一九八二年には実際のモンテ・カプリーノで、三十六歳の労働者サルヴァトーレ・パッパラルドが殺害されます。事件は未解決に終わりましたが、ローマの同性愛者団体はこれを反同性愛の問題として解釈し、抗議行動を展開しました。夜の公園が権利を訴えるデモの終着点となったのです。

事件以降、ローマのゲイ文化は暗がりとは別の表舞台も増えていきます。一九九〇年には、LGBTQ団体「マリオ・ミエーリ倶楽部」が活動資金を集めるためにクラブイベント「ムッカッサッシーナ」を始めました。最初の会場は、テスタッチョの旧屠殺場。名前も「殺される牛が逆襲する」という反抗的かつグロテスクな由来をもちます。公園の茂みでひっそり出会っていた時代から、今度は爆音とドラァグクイーンの下に集まる時代へ。さらに一九九四年には、ローマでイタリア初のプライドが開催され、ゲイ/レズビアンの可視性そのものが運動の大きなテーマとなりました。その延長線上にあるのが、二〇〇一年のバー「カミングアウト」のオープンです。二〇〇七年、団体アルチゲイ・ローマと「カミングアウト」の運営者たちは、すでに多くの人が集まっていたこの短い区間を正式に「ゲイ・ストリート」としてお披露目しま


2022年ローマプライド時の「カミングアウト」

す。**ローマ市も実験的な歩行者化に協力し、既存のたまり場に「名前」と「輪郭」を与えたのです。**

半世紀前には公園の茂み、一九九〇年代には屠殺場跡のイベント、二〇〇〇年代にはコロッセオ前のゲイ・ストリート。こうして見ると、ローマのゲイ文化は場所選びに妥協しません。暗がりに隠れるところから始まって、最後は世界遺産の隣で堂々と店を構える。『ローマの休日』の裏で「ローマの夜」はこうして発展していきました。私自身もずいぶん〝発展〟したものです？


2022年ローマプライドのレプッブリカ広場

文◉神田育也

神戸在住の京都大学大学院博士課程。専門はイタリア映画および映画理論で、好きな映画は『ジョーズ』と『甘い生活』。非常勤講師として映画分析や語学を教えながら、現在博士論文を執筆中。休日はかわいい服と旨い食べ物を求めて街を散歩し、週に何度か沙漠に通う。研究する傍らリアルにも勤しむ。弱い言葉は「今夜ひま？」。